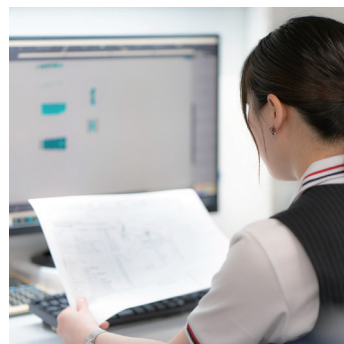


多くの人が嬉しい気持ちになる服作りを目指して。

中本 あゆみ

生産部企画課 / パタンナー



「12歳の時に友人がコーディネートしてくれた服を着た時、服を変えただけなのに、自分が生まれ変わったような感覚になりました。」と話す中本さんは、そのことがきっかけで、服のことをもっと知りたいと高校、専門学校と服飾の学校に進学。その中で、パターンは服のシルエットや機能性、着心地の善し悪しが決まる、服にとって重要なものだとことを学び、パターンの知識や技術をもっと身に着け、多くの人が嬉しい気持ちになるような服を作りたいと思い現在の仕事を選んだそうです。

現在の担当はワーキングウェアの新商品と別注のパターン作成、縫製仕様書の作成、従来商品のパターン管理、修正など。「パターン作成はファーストパターンから工業用パターンまでに半年かかることもあります。完成した時は、嬉しい気持ちもありますが、その製品がお客様に受け入れられるか心配な気持ちの方が大きいですね。」自分が製図した服を着ているエンドユーザー様を見かけたときは、とてもやりがいを感じるそうです。「会社の人たちや取引先、お客様のおかげで自分が製図したものが実際に製品となり、お店に並び、たくさんの人たちの関わりによって製品がお客様の元へ届いていること、そしてお客様がそれを選んで購入し、着てくれていることに感謝とやりがいの気持ちを感じます。」



もっと生の声

Q & A

—— 心掛けていることはありますか？

どうしてもカッコイイ見た目と実用性の両方を叶えることができるか、良いものが作れるかを考えるようにしています。「良いものをつくる」ことを目標にして、嬉しいことや困難なこと色々なことがあるたびに「良いものをつくる」ということを軸にして考えるようにしています。

—— 今後取り組んでみたいことはありますか？

今後は、企画も含めてパターン作りに取り組む予定です。企画担当者として二人三脚で商品企画のための時間を作っていきたいです。様々な経験を積み、自分の仕事の幅をできる限り広げていきたいと思っています。

—— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

繊維業界に興味を持つ若い人は減っていて、少し寂しいイメージを持たれているかもしれませんが、衣食住に関わる仕事である以上、なくなることはないと思います。衣料に関わる仕事は、どんな状況にも必要とされる、とてもやりがいのある仕事です。皆さん一緒に頑張りましょう。